私と生涯学習

下有知　**波多野　いと子**さん

旧武儀町生まれ。バスガイド。著書に『謎を追う　名馬と花の武士』（文芸社）『離島に生きた梶原景季』（歴研）など。趣味は鮎釣り、和太鼓、旅。

◎「名探偵いと子」ガイドから作家に転身？

著書『謎を追う　名馬と花の武士』は、波多野さんがバスガイド中に意気投合した鹿児島の甑島（こしきじま）の人を訪ねた旅で偶然に「梶原源太景季（かげすえ）」の墓をお参りしたことから始まります。「名馬」は郡上市明宝気良の里で天馬との間に生まれた〝磨墨（するすみ）〟。「花の武士」は、約800年前、梶原景時の長男に生まれ〝磨墨〟の背に乗り幾多の戦場を駆け巡った〝景季〟。静岡県清水市で父と共に果てたといわれる景季の墓がなぜ、甑島にあるのか？この難問に挑む「名探偵いと子」の旅が物語となっています。

謎を解くべく、自分の足でたどる旅はとても攻撃的で、ほとんどが事前予約なしの直撃一人旅。資料などを収集し、電車に揺られ現地に行き、目でみて、話を聞く、まさに「現場主義」。読者は、波多野さんと一緒に旅をしているような臨場感を味わうことができます。いろいろな人との出会いや新しい発見に、歴史のロマンを抱き、あたかも源平の時代にタイムスリップしたかのような気分になります。

▲表紙は磨墨の里（郡上市明宝）「名馬磨墨之像」が飾る

◎ガイドの心意気

平成17年に自費出版し、市内の病院などに配本した『わっちといこまいか！』はガイドの持ち味が十分に生かされています。

波多野さん自身も入院を経験し、そこで出会った患者、介護をする人に、せめて旅気分を味わって欲しいとの思いで、関市から山陰地方の湯村温泉までの旅が、まるで観光バスに乗っているかのように描き出されています。

お客さまに喜んでいただくために努力を惜しまない波多野さん。度々出かける一人旅も、新しい旅行先を発掘することやガイドの話題づくりに役立てます。一人の旅人として、定期観光バスに乗車し、話し方や内容を研究します。だからこそ波多野さんを指名する団体も多く、定年のないガイド業はこれからもずっと続くことでしょう。

▲武儀弁混じりで親しみやすく、元気になれる一冊

◎行動力が夢を叶える

ガイド一筋と思いきや、4月はさくら道国際ネイチャーランのボランティア、8月は長年の趣味、鮎釣りを存分に楽しむため仕事はお休みします。ほかにも、ガイドで培った美声を生かして音訳ボランティアや和太鼓など、オン・オフをうまく使い分けています。

その行動力を発揮し、個人出版ができる会社に原稿を送り、作家としての一歩を踏み出してからは、いくつかのエッセイに投稿し採用されるなど、作家の顔もできました。友だちからは「長年の夢が叶ったね」と言われますが、当の本人はすっかり忘れていたほど。「一期一会の縁を大切に、お客さまから学んださまざまなことを伝えていきたい」その思いを胸に、ガイドに執筆に忙しい日々です。さあ、今日も元気に「発車オーライ！」

▲中濃地域を中心に、平成10年に誕生した鮎美濃倶楽部に所属

楽しい・うれしい・新しい　情報をキャッチ!!